

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100731		
法人名	アクセプトラライフ株式会社		
事業所名	中の小路紀水苑		
所在地	佐賀市中の小路4-16		
自己評価作成日	平成31年3月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成31年3月28日	外部評価確定日	令和元年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が利用者様の立場に立ち、利用者様の残存機能を生かせるような介護が出来るように日々勉強や試行錯誤を重ねています。
地域の公民館に行く、お祭りに参加する等に努め、地域住民とのふれあい支援や家族の方にとっても来苑しやすい環境作りをし、利用者様が孤立しないお手伝いをしながら、地域の中で『明るく 楽しく 元気よく』の理念の基、家族の方々と共に家族同様の介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

佐賀市内の中心部に位置しており、スーパーやデパートなどのお店や、警察署、消防署、県庁などが近くにある為、利便性が良いだけでなく、散歩ができるような歩道も整備され、公園など緑も豊かで環境もよい。職員は入居者に自分でできる事はできるだけしてもらうようなケアを心がけており、リビングからも話し声や笑い声が聞こえてきたり良い関係が築かれている。食事やおやつは職員が作っている為、臨機応変に利用者の要望に応える事ができ、普段あまり食べないようなピザやケーキなどを作る事もある。地域の方と入居者の方との接点になればという管理者の思いから、「こども食堂」を開き、そこには地域の高齢者の方も利用できるようになっている。
医療面では訪問診療を行っている協力医が救急指定の病院でもあるため、緊急時などもすぐに対応ができ、管理者と医師の連携も図れている。今後必要とされる看取りに対応したり、医師からの指示を直接受ける事もでき、施設で暮らす利用者、その家族、職員の安心につながっている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域の中で 明るく 楽しく 元気よく』 という理念の基、理念の実践を念頭に置き日々の業務に取り組んでいます。	同左	シンプルで誰もが分かる理念は、管理者が幼いころから心に残っている言葉で作られている。理念はリビングの誰でも見られるところに掲示されており、職員への意識付けを図っている。「明るく 楽しく」の理念にあるようにリビングでは職員、利用者の笑い声が絶えず聞こえてくる。管理者は理念が職員間で共有され、浸透していると感じている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	体調に留意しながら、地域公民館へ月1回の行事参加、地域祭りや運動会への参加等を利用者様と共にを行っています。	同左	自治会に参加しており、地区の行事などの情報は回覧板で入手できる。地区の行事では除草作業に参加したり、小学校の運動会を見に行ったり、祭りを見に行ったりしている。地域の方とも顔見知りになり、利用者や職員のためにテーブルを準備してもらうこともある。公民館主催のイベントには保育園からの参加もあり利用者にも喜ばれている。介護度が高くなっても、車椅子の方でも地域の方と触れあえるよう外出の機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護福祉健康相談を随時受入れる事をパンフレットにも記載しています。こども食堂を通じ、高齢者の方への支援にも活かしています。	同左			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報公表、外部評価などの取り組み、運営計画などを報告し、意見交換を行っている。また、頂いた意見は議事録に残し改善と質の向上を目指しています。	同左	施設の事を知ってほしいため、委員の方には活動や状況の報告を行っている。委員会の中では意見交換や委員からアドバイスを受けてサービスの向上につなげている。介護度の高い利用者を外出させたいという思いを伝えた時は、委員より無理に外出させるより、現状を受け入れる事も大事とアドバイスをもらったり、会議の中で公民館主催の行事について情報をもらったりし、参加につなげて利用者からは喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が開催する、ネットワーク(地域ケア会議)等に参加し意見交換に努めています。運営推進会議においても意見交換を行っています。	同左	地域ケア会議だけでなく、民生委員の集まりや医療連携を密にする会議など、市の職員も参加する地域の会議に必ず参加するようにしており、市の職員とは顔見知りである。いつでも相談にのってもらえるような関係づくりはできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会の実施や参加。マニュアルの準備、身体拘束ゼロ宣言掲示など行い、職員の拘束に対する理解を深め、必ず職員が見守る事にし、錠をかけないケアに努めています。	同左	身体拘束は絶対にしないという管理者の強い思いもあり、玄関の施錠だけでなく、センサー類もほとんど使用していない。職員にも身体拘束を行わない理由の理解ができるよう分かりやすい資料などを用い、根拠などを伝えるようにしている。年に2回は勉強会にも参加しており、職員にも伝えている。開設以来、身体拘束を行ったことがなく、身体拘束をしないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料やマニュアルを使用し勉強会を行い職員の虐待に対する理解を深め、ミーティングや日頃の業務を通して勉強した事を常に生かし虐待防止に努めています。外部開催の勉強会にも参加し勉強しています。	同左		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し、知識を深めるよう努め、職員ミーティング時に話し合っています。また、運営推進会議時や外部勉強会等でも同様です。	同左		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者様、御家族様とゆっくり話せる時間を設け十分な説明を行い同意を得ています。改定時も都度説明し同意を得、理解納得に努めています。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内苦情箱、苦情担当者を設置。苦情公的窓口の紹介を契約書にも記載し、口頭でも説明しています。相談、苦情内容の経過を記載し改善に向け取り組んでいます。運営推進会議、家族会の他随時意見を頂く機会を設けています。	同左	ご家族からの意見は何でもご意見ととらえるようにしている。ご家族が面会に来たときには何でも伝えており、気になる事は電話をかけて伝えたり、面会時に再度伝える事で解決している事が多く、ここ数年は苦情はない。家族の面会も多く、職員が家族の悩みも聞くほど関係は築けている。意見や要望を気軽に言える環境つくりと要望を取り入れる事を続けている為、ご家族の信頼につながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全員参加の全体会議、随時意見や提案を聞く機会を設け、意見交換の場にし、反映させるよう努めています。	同左	月に1回、会議を行っており、職員の意見を聞く機会を設けているが、必要であればその都度で話し合っている。職員も管理者に意見を言いやすい雰囲気があり、管理者も職員の気付きや意見をしっかりと聞いている。職員の良いと思った提案は積極的に取り入れている。利用者にとって良いと思う事は管理者の見守りのもと、職員が自主的に動いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の努力や実績など段階に応じたチェックリストを基に条件の整備などに努めています。	同左		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修や資格を取る為の援助をしています。	同左		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流研修会や合同勉強会への参加を促しています。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報作成時、入所前に担当のケアマネージャーや病院よりの情報や本人、御家族様の要望や不安点を十分な時間を用いて作成。初期プランを作成する為の担当者会議なども行っています。	同左			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅介護中困っていた事、不安点、今後の要望等十分にお聞きし、それを受け止めて、御家族様と相談を重ねながら日々業務に努めています。	同左			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談などを行っています。必要に応じ体験入居期間なども設けています。基本情報だけでなく生活歴もしっかり取りります。	同左			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残在機能を残す為利用者様の出来る事を一緒に発見し、喜怒哀楽を共に感じたり、逆に利用者様から教わる事、助言を頂く事、励まされる事も多くあり感謝しながら日々の業務に努めています。	同左			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族より野菜の差し入れや、食器等提供もあり、協力しながら生活しています。あるがままの生活状況を見て頂き苑行事にも御家族様に参加して頂きながら、食事介助など一緒に行い御家族様との絆を大切にするように努めています。	同左			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や近所の方々がいつ来て頂いてもいいように面会時間は決めていません。 各室に家族写真や新聞の切り抜き等を設置していただき、写真を飾るなど馴染みの個室作りに努めています。	同左	近所の方が訪ねてきたり、通いなれた理髪店に行かれている利用者もいる。職員は、利用者の馴染みの方とも顔見知りになりたいとの思いから、理髪店までの送迎を行うなど、関係継続の支援に努めている。また、家族だけでなく、遠方の親戚が訪ねてきたりと面会も多く、1日に1組の面会は必ずあり、3.4組あることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どのような時にトラブルが起こりやすいか全員が周知し、トラブル発生時は直ぐにスタッフが仲裁できるようにしています。 利用者様同士お互いが助け合えるような環境作りに努めています。	同左		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葉書を出す、苑行事にお誘いするなどに努め、現に退去された方々のご家族がお話に来られたり差し入れを持って来られたりします。	同左		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の基本情報を十分にとる。 個人個人に合ったケアプランの作成と都度のカンファレンス、見直し。 日々の生活の中で思いを聞き取りたり発見したりします。	同左	施設として、入居者がどんな生活を送りたいか、どんな風に過ごしたいか、これまでの生活歴等を知る事が大切と考えており、そこには入居者だけでなく、ご家族の思いも大切にしたいと考えている。一人ひとりの関係作りのため、入居前に2.3回話をし、思いを聞くことを心がけている。関わりのある方であれば、病院や居宅ケアマネジャー、デイサービス等にも尋ね、介護度が高く、話をされない利用者にも同じ思いで聞き取りを行うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、御家族様と共に生活歴を作成し、これまでの生活環境を把握。 ケアプランの見直しは担当だけでなく多くの職員と実施しています。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態を個人経過記録に記入していき、日々把握し、ケアプランと照らし合わせている。 1ヶ月毎のケアカンファレンスにて職員全員現状を把握しています。	同左			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを基に御家族様や職員とのモニタリングにて意見交換やアイデアを出し合い全職員が分かりやすい計画を立てプランを作成しています。	同左		モニタリングは毎月行っている。評価は3カ月毎に行い、生活に慣れて来たら半年で評価をしている。 アセスメントを行う時に本人、ご家族に要望も聞き、意見を言えない利用者には施設から必要と思える事を提案したりすることもある。日々の記録の中にケアプランの項目を入れている為、ケアプランの内容は職員間で共有できている。施設としては、できるだけ自分でできる事を続けて欲しいという視点や、計画作成担当者のみの意見にならないよう職員の意見も反映させて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録記入はもちろん、日々の申し送り、重要事項データにて全職員が情報共有化が図れるよう努め、プランの介護内容を日常業務にて実施出来ているか、必要なのかを毎日チェックし、計画の見直しをしています。	同左			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画は見直し期間ではなくても状態変化に応じ随時見直すようにしています。看護師や医療連携体制の健康管理の基、急変時の対応に、重度化、終末期の体制作りにも努めています。 外出、外泊も希望に添えるよう支援しています。	同左			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の清掃作業やお祭り等に参加にてお手伝いできる事を一緒にし、顔見知りの関係を作る事に努めています。又、地域の方との触れ合いを見守り支援に努めています。	同左			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時に対応して頂ける協力機関があり、予約を取り直ぐに受診できます。(必要時には往診も可) 医療連携を取っている病院だけでなく、利用者様御家族様の希望の医療機関を受診できるよう努めています。	同左	施設として希望があればかかりつけ医に継続して受診できるよう支援しているが、入居が長くなると訪問診療や緊急時の対応を考えて、協力医への変更を希望する方が多い。 受診の際は介護タクシーを使用して受診に行っており、ご家族が付き添えない時は必ず報告を行っている。 協力医が救急指定の病院でもある為、緊急時にはすぐに対応ができ、家族・利用者の安心感にもつながっている。かかりつけの薬局とも連携が取れており、副作用について教えてもらったり、薬の分包や形態を変えたりすることも柔軟に対応してもらっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様の状態変化や気づきの報告や相談を管理者や看護職員へ相談しています。必要あれば医療連携のかかりつけ医の看護師に電話で相談できる体制を取っています。	同左		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、面会へ行き、退院への調整、今後の対応など話し合うよう努めています。 又、訪問診療や往診時にはもちろんですが、体調の変化があれば直ぐに状態報告し相談や指示をDrより受け、入院しても直ぐ対応できるよう努めています。	同左		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化、終末期の指針を説明し同意を得ていますが、重度化や終末期時には説明と同意を都度得る機会を増やします。 余命宣告などあれば、家族の面会も密にして頂き、相談しながら1カ月おきの計画を作成。状態変化に応じて随時話し合いながら変更や追加をします。	同左	これまでに看取りの経験もあり、看取り介護の指針も整備されている。 施設で看取りを希望する入居者も多い。看護職員の手厚い配置があり、協力医との連携も図れている。 管理者も直接医師に電話をかけて指示を仰ぐなど、協力体制が整っており、職員も安心してケアに当たる事ができている。これまでの経験から、職員の観察の能力も培われており、ちょっとした変化に気付くことができ、必要なケアにつなぐことができている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルも準備し急変に備えてきちんと個人を管理し、随時医師や看護師の指導を受けています。普通救命の受講を受けている職員もいます	同左			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回実施。消防署の職員の方よりご指導を受けています。また、防災について地域の方々やご家族様よりご意見を頂き取り組みに反映させています。	同左	施設が消防署の近くにあるため、緊急時は2分で届く距離にある。そのため、職員は利用者に落ち着いてもらう事、どこにいるのかを把握する事が緊急時にすべき事と言われており、職員も把握している。避難訓練は年2回あり、地域の参加も促している。地域の参加までにはなかなかつながらないが、地区の消防団からは是非参加したいと希望がある。避難訓練時に防災の設備を整えていても、紙などを壁に貼っていると燃えてしまうとアドバイスをもらい、今後の対応を検討している。施設には米や水などの備蓄品の他、発電機やIHヒーターもあり、3日間は生活できる。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時には親しみを込めて方言を使用したりしていますが、常に利用者さまを尊敬する心は忘れる事無い様努めています。トイレ誘導時にはあからさまに行わないよう着脱更衣も全て個室にて行う。個人情報取扱いは掲示し職員も周知徹底にしています。	同左	更衣は必ず居室でし、トイレにはカーテンを付けるなど、プライバシーに配慮した支援を行っている。本人が気にしている事などは小声で聞こえないように話したり、本人に伝える事は本人のそばで話をするなどの配慮をしている。個人情報に当たるカルテなどの開示は、緊急時に病院へ伝える時のみで、普段開示はしていない。職員にもプライバシーの大切さについては伝えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好き嫌いや好きな食べ物を聞いたりしている。嫌いな食べ物は工夫して食べて頂けるよう配慮している。好きな事を見つけるよう努力し支援している。洋服も個人の能力に合わせ選んでいただく。等に努めています。	同左			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や曜日など入居者様の希望に合わせています。何事でも時間を要する方でもゆっくり声かけをし、自発的に行えるよう見守る事に努めています。	同左		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフの価値観で服を選ぶのではなく本人に選んで頂く。美容師来苑時にはご自身で好みのカットを伝えられカットしていただいたり、顔そりや眉カットをしていただいています。	同左		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力にあわせています。味付けなどの調理を一緒に行ったり、片付けをします。好みの食べ物や料理を聞いてメニューを変更します。残在機能を生かした食事介助を行う。などに努めながら利用者様、職員が皆一緒に食事の時間を音楽をかけながら楽しんでいます。	同左	施設は食べる事が一番大事と考えており、できるだけ自分で食べてもらえるようなケアを心がけている。食事の材料は八百屋や味噌など宅配で来るものもあるが、近くのデパートなどへ利用者と一緒に買い物に行く事もある。献立はあるが職員が調理をしている為、利用者の希望に沿って変更するなど臨機応変に対応できる。ケーキやドーナツなどおやつも手作りで提供している。普段食べないような食材も、近くに大型デパートがあり品数も多く手に入ることもあるため、利用者の満足にもつながっている。年に2回はご家族を招いて食事会を行っており、花見などにも参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックは毎日行い、カロリーなどもわかるバランスの取れた献立を立てています。食事がすすまない方には嗜好物を提供し捕食としたり、スプーンの大きさ、長さ、テーブルの高さなどを変えて食べやすさをサポートしています。	同左		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはブラシを多用しながら個人の能力に合わせて必ず行っています。又、歯科医に口腔ケアの指導をして頂いています。義歯の消毒は定期的に行っています。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	下着、パット、紙パンツ等を日中、夜間、外出時に応じて使い分けています。 全員チェックシートを用いて個別の排泄パターンを職員全員周知しています。可能な限りトイレにて排泄できるよう支援しています。	同左		トイレで排泄する事が大事と考えており、夜間はオムツを使用するが、日中はほとんどの入居者がトイレで排泄できるよう職員が誘導している。夜間でも希望があれば鈴などで知らせてもらい誘導を行っている。近年、車椅子対応の利用者が増えた事で安全にトイレ誘導ができるよう、トイレの改修も行っている。パットも費用がかかることを考慮し、できるだけ安く良いものを使用するよう努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックは毎日行い、常に個別の排便コントロールを図っています。 便秘傾向の方には食物、飲み物、腸運動にて可能な限り自然に排便を促すように努めています。	同左			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調に留意しながら、長すぎず、短すぎず個人の希望に合わせて入って頂いています。 入浴の順番も考慮しています。	同左		入浴は週に2回行っている。毎日準備を行っているので、希望があればいつでも対応できる。面会者が訪ねてきたり、食べたり飲んだりした直後には入浴せず、時間をずらしたり、利用者の体調によってもシャワー浴や足浴を行ったりしている。浴槽内につかってもらう事が、体力や身体の機能的に難しくなっているが、安全に入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	経過記録を基に、睡眠パターンを職員全員が把握するよう努め、場合により、主治医の下で処方された薬剤で調整を図ったり偽薬を使用することもあります。 休息も個々人に応じた休息を取り入れています。	同左			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の薬袋があり薬の目的、作用をすぐに取り出せる場所に置き、職員全員周知しています。薬包には名前を記入し、日付け毎に分けて正しく服用できるように管理しています。又薬局と連携しきちんと服用出きる様相談したり加工を個々人で変えています。	同左			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩等外へ出る機会は楽しみや気晴らしの場となっています。生活歴や現状態を基に、役割を見付け、一緒に行動しよう努めています。又日課を見つけ支援しています。毎日身体を動かす時間を午前午後や食事前に取り入れています。	同左		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の希望は場所により困難なこともあります。本人の希望は必ず家族人に伝え、連れて行けるように支援したり、私たちが行ける所は苑行事で検討しています。(地域祭りの参加、紅葉見学、お花見など)状態に応じ、日常生活の中でもドライブに出掛けるなど支援しています。	同左	体調が悪い日や寒い日を除けば外出の機会を多く設けるようにしており、3日に1回くらいの頻度で散歩したり買い物に行ったりしている。立地場所が良く、色々なお店が周りにあり、地域の方たちと接することもできる。ご家族にも色々な行事へ声かけを行い、一緒に過ごす機会を作っている。遠出の場合は、タクシーを使用するが、近年介護度が高い入居者も増えており、福祉車両を所有したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じてお金を持って頂くこともありましたが現在はいらっしゃいません。(御家族様立会いの下や本人様の下で出納帳を作成し、スタッフも所持金額を把握していました)外出した先で使用する場合は立て替えています。	同左		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご希望があれば電話を使用して頂くこともあります。葉書など支援しながらご本人に作成して頂き家族に送るなどに努めています。又年賀状や暑中見舞いを作成する支援もしています。	同左		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの声を呼び声と勘違いされる利用者様には音量に気を配る。夜間はトイレの電気は消さず分かりやすくする。既製品の表示プレートだけでなく暖かさを出す為、手書き表示や季節に合わせた飾りつけを行っています。居室内の電気の色を替え温かみのある色にしました。	同左	南側に窓がありリビングは明るい。テレビが好きな利用者に合わせて2台テレビも設置されている。職員がアルコール消毒を1日2回行ったり夜はソファなども拭き上げをしているためリビングやお部屋は臭いもない。換気も1日6回程行ったり、冬は加湿器を設置し湿度を40%以下に落とさないなど、感染症予防にもしっかりと配慮されている。重度化に伴ったトイレの改修も行い、利用者が快適に生活できるような環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファの置き場を変えたりしながら工夫する事で、一人の空間を作ったり、少人数で過ごせる場所を作っています。	同左		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様に写真や本人使用の物を持ってきて頂いている為、私物の多い利用者様の個室は安心して過ごせる空間になっています。私物の少ない方は、苑で撮影した写真を飾ったりこちらで生活用品を準備しています。	同左	居室には飾り物がたくさんされており、写真や職員手作りのパステードカードなどがあり温かみのある設えになっている。また、個人の持ち込みの家具もあつたり、居室の表札は本人様が分かりやすい様に工夫されている。利用者の好みものを職員が手作りでプレゼントし、それを大切に使っている様子もうかがえる。日中、ほとんどの利用者がリビングで過ごされ、お部屋で過ごす利用者は少ないが、それぞれの居室が居心地良く過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場、居室、玄関への手摺りの設置、浴槽内への滑り止め、マットの設置。スリッパ着用止め、利用者様の身体状態に合わせた履物の工夫をし、見えやすく、分かりやすい工夫で自立支援をしています。	同左		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	-	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	-	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	-	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	-	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	-	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	-	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	-	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	-	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	-	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	-	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	-	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	-	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	-	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない